

## ジョブシャドーイング推進と学校力向上

### 1. はじめに

学校力向上に関する総合実践事業の調査協力校として指定を受けた今年度。指導教諭と初任者教諭がティームティーチングを組みながら授業を進めることを軸に、授業内外の各種業務の総体を常に観察し、省察するとともに、学級担任業務等とともに推進する中で、毎日指導教員からの直接的な指導を受け、総合的・徹底的な演習を進めてきました。1年にわたったこの取組は、当該教諭のみならず、全校を巻き込んだ教師の指導力向上の基盤づくりとなり、学校力向上につながる取組となっています。

### 2. 主たる重点的な取組

<ジョブシャドーイング日誌>	<全校ジョブシャドーイング>	<若手を育むジョブシャドーイング>
☆ 取組と指導内容の記録化 ☆ 長短期的目標の明確化と重点化 ☆ 指導教諭と初任者との関係づくり	☆ 指導者意識を生かした指導体制 ☆ 1日・週間学級担任 ☆ 指導技術の継承と学校力向上	☆ メンターミーティング ☆ 長期休業中のおもしろ授業づくり ☆ 若手教諭を育む学校風土の醸成

### 3. 主たる取組内容の概要

#### (1) ジョブシャドーイング日誌（別紙）

毎日の授業参観（実践）と指導記録、また指導教諭と初任者教諭との信頼関係づくりに寄与する「ジョブシャドーイング日誌」は、取組の整理と深化、さらに長短期的な目標を明確にした研修計画を実施することに効果を上げています。

#### (2) 全校ジョブシャドーイング

全校児童数640名、教職員数50名を数える本校は、年齢構成が幅広く、バランスも良く、優れた指導力をもつ教諭が少なくない。このことから指導教諭がコーディネートして、1時間～1日の単位で、年間数回の計画を立て、全学級担任や教科担任が授業を通じて直接的に初任者に指導する機会をつくるなど、指導の環境を全校に広げている。

また、1日～1週間単位での学級担任を複数回行い、初任者自らが主体的に実践し、実地による学級担任修行がすすめられています。

初任者が全教職員からの指導を受けるかわりには、優れた指導技術の継承と共有による学校力向上につながっています。

#### (3) 若手を育むジョブシャドーイング

ジョブシャドーイングの研修の一環として、全教職員の20%を超える20代若手教諭の思いを交流し合う「メンターミーティング」を定期的開催している。先輩教諭が経験談を交えながらアドバイザーとして指導助言を進めるなど、若手教員集団を全校で育む気風が広がっている。これは、ベテラン教諭のサポートを受けた若手教諭による「おもしろ授業」（長期休養中）の実践など、具体的実践的な授業作りにつながる取組など、学校をあげた若手を育てる気風の醸成につながっています。



### 4. おわりに

ジョブシャドーイングによる取組は、優れたベテラン教諭の指導により、初任者教諭が初任段階時期でつけるべき能力を、確実に身につけさせることができる事業として、極めて有効なものです。とりわけ、初任者育成計画に全教職員を巻き込むことにより、初任段階研修にとどまらない、全校を上げた若手教諭を育む風土の高まりにより、学校力向上の足がかりとなっています。

今後は、校長が中心となり、初任者本人の特性をふまえ、指導内容の特化と指導の役割分担をより一層明確にし、指導内容の深化と指導の効率化等、運用面の環境づくりを進めていきます。

# 教師の力量をあげる本校の取組が 全道に発信されました

北海道教育委員会からの指定を受け、今年度本校では新しい初任段階研修として、四年三組を中心とした「ジョブシャドーイング」の取組を進めています。  
初任段階はもちろん若手の教員を育てていくことは、子どもの豊かな育みにつながり、学校の大きな責務です。また若手教員を育てることは教えるベテラン教員も自らの力量をあげることにつながります。  
『全ては子どもたちのために』引き続き学校が丸となって取組を進めていきます。

## 十勝管内の若手教員育成

卓越した教科指導力をもつ教員が初任者をマンツーマンで指導する。こうした取組は、若手教員の力を伸ばすために理想的といえるが、学級担任や単独授業をもちながら実現するには、多くの困難を乗り越えなければならぬ。この課題に対する回答を提示しようとする学校がある。「ジョブシャドーイング」に取り組み帯広市立稲田小学校、「OJT(オン・ザ・ジ

ョブ・トレーニング)を進める帯広市立南町中学校。未来の教育を担う若手教員育成に向けて尽力する二校の取組を取材した。  
山代教諭が初任者指導教諭として初任者の鈴木麻里教諭を指導。「説明・発問・指示」「ノード指導」「指導案・週案づくり」「学級通信づくり」のほか、「一日担任や家庭訪問、保護者との対応」など、マンツーマンでその仕事を伝えている。

稲田小(斉藤昌之校長、児童数六四〇人)では、道教委が進める「初任者研修の抜本的改革に関する調査研究事業」の指定校として、「ジョブシャドーイング」に取り組んでいる。

## 学校全体の指導力底上げに効果

### ジョブシャドーイング・OJTの実践

取組では、教科指導はもちろん学級経営や保護者とのコミュニケーション能力に優れ、後進の育成に情熱をもつ教員が初任者指導を担当。初任者は、学級担任や単独授業をもちに研修に専念できる環境に身を置く。同校では、四年三組担任の西

大変ありがたい。今後は、指導してもらえることに受け身にならず、自ら積極的に研修し、資質・能力の向上に努めたい」と意気込む。  
西山教諭は「仕事の資質能力を向上させることはもちろんだが、教師になって良かったという気持ちを忘れないことを一番に考えて指導に当たっている」

同校では、西山教諭や斉藤校長の感じた「手応え」を確かなものにするため、さらにジョブシャドーイングの取組の研究を深めていく考えだ。  
一方、南町中(八重柏新治校長、生徒数六二九人)では、「OJT」を導入している。OJT主任が、参加していないほかの教員に報告し、全体に周知して

## みんなあつまれ！ 稲田の子学ぼう会遊ぼう会

十二月二十五日・一月十四日 九時半～午前中  
すでにご案内をしております冬季休業中の学力向上と体力づくりにつながることをねらった「学ぼう会」「遊ぼう会」が行われます。特に今回はベテラン教諭がサポートする若手教員の「おもしろ授業」や畜大の体育の専門家をお招きしての「エクササイズ」が大きな目玉です。学生ボランティアも多数来校予定です。  
申し込みまだ間に合います。電話受付可。お気軽にご予約。行き帰りの交通安全には十分ご注意ください。



輩と後輩などが仕事を共有する中で、必要な知識・技術・技能・態度などを指導・修得し、職場全体の業務処理能力や力量を高める活動のこと。同校では、「校務運営委員会」を設置し、OJT活動の内容を話し合っている。  
委員会は、校長、教頭、主幹教諭、教務主任、生徒指導主事、生徒会指導部長、保健主事、研修部長、学年主任(三人)の計十一人で構成されている。初任者を含めた教員の指導力向上を図るため、「生徒たちに朝読書を定着させ、落ち着いた一日の始まりを迎えさせよう」「朝の打ち合わせを早めに終わらせ、生徒の待つている教室に向かう」などの具体的な方策を決定。会議に参加している各学年主任が、参加していないほかの教員に報告し、全体に周知して  
同校の教職員は、同委員会が教員として身に付けた力を明らかにする役割を果たしているところとされている。その結果、指導を受ける側だけではなく、指導をする側にとっても職務への意識向上につながっているとみている。  
八重柏校長は「この方式を取り入れる価値は高い」と手応えを口にする。初任者と指導担当者だけが大変な思いをするのではなく、「学校全体で学び合い、成長し、協働する職場づくりに非常に有効」と感じている。  
十勝教育局の佐藤育子教育支援課長は「初任段階で先輩教諭の優れた実践を学び、具体的な指導のイメージをもつことは大切。初任者を学校全体で育てる」ということは、その学校のすべての教職員の指導力向上、学校全体の資質向上につながる」と高く評価する。  
(シリーズおわり)



## 帯広市稲田小が教育実践発表会 ともに高めあう子育成 算数中心に14授業を公開

【帯広発】帯広市立稲田小学校（斉藤昌之校長）は十一月中旬、同校で第七回教育実践発表会を開催した。研究主題「自分の思いや考えを持ち、ともに高めあう子どもの育成」のもと、算数を中心に14授業を公開。うち、四年三組算数「広さを調べよう」（西山乙代教諭、鈴木麻里教諭）では、前時のゲームの結果や練習問題を通して、広さの比や面積の単位の表し方を理解させる学習を展開した。

研究主題に「自分の思いや考えを持ち、ともに高めあう子どもの育成」を掲げ、目指す子ども像として、①既習事項をもとに、友達と力を合わせて問題を解決しようとする子の算数の面白さ、良さを感じられる子②イメージを伴った理解ができる子を設定。算数科を中心に、子どもたちが主体的に物事を考え、友達とかわり合って、進んで取り組むことができる授業づくりを目指して研究を進めてきた。

また、本年度から道教委の指定事業「ジョブ・シェアリング」の研究に取り組み、指導方法の改善を模索。初任教諭の鈴木教諭が指定され、四年三組担任の西山教諭が初任者指導教諭として各種業務や指導方法などについてマンツーマンで指導・助言し、総合的・徹底的に研修してきた。

**指導方法改善へ  
シャドーイング**  
実践発表会では、算数科を中心に14授業を公開し、うち、四年三組の算数科「広さを調べよう」では、西山教諭がT1、鈴木教諭がT2を務めた「写真」。前時までに広さの表し方について「陣取りゲーム」をして広さの量感をとらえてきた。本



時では、「陣取りゲーム」で得られた図形の面積の比や表し方を考え、いろいろな方法で広さの調べ方、表し方、面積の単位の表し方を理解することをねらった。

西山教諭ははじめに、前時に行った「陣取りゲーム」の面積差の少ない班の結果を示し、課題「誰の陣地が広いか比べてみよう」を提示。児童たちは、「マス」を切って重ねる、「マス」に線を引き、マスの大きさを揃えて数える」などの方法で比較した。

鈴木教諭は、苦手意識をもつ児童に対して、ヒントを投げかけるなど、広さの表し方についてイメージをもつよう支援していた。このあと、西山教諭は「比べるときには長さが分ると求められる」とまとめ、「一辺が一定の正方形の面積は、 $cm^2$ で表すこと」を伝えた。おわりに、児童たちは練習問題に挑戦し、広さの比や面積の単位の表し方について理解を深めた。

公開授業後には、全体会や分科会を開き、友達とかわり合って進んで取り組むことができる授業づくりに向けて交流した。

## 5 実 施 記 録

各学校において、日々のシャドーイングの実施状況を記録した実践記録例を掲載

- ①大樹町立大樹小学校 (P25～28)
- ②伊達市立伊達小学校 (P29～32)
- ③帯広市立稲田小学校 (P33)

## ジョブシャドーイング実施記録票

大樹町立大樹小学校 氏名 高 平 昂 太

月	日	校時	学級	教科	内容
4	6				項目   学校の教育目標 学校目標を知ることができた。これがそもそもの始まりだと思った。
4	7				項目   学級担任の準備 テストや教材の発注は早めに済ませておかないといけないことがわかった。
4	7				項目   教室環境の整備 児童の氏名をラベルにして、いろいろなところに貼らなければならない。これだけでもたいへんな作業だった。
4	7				項目   教職員のサービスと義務 教職員としてしっかりとやっていきたい。
4	8				項目   学級通信の作成 学級通信名は1年間使用するものなので、児童にとっても意味のある物にしなければならない。
4	8	1	4年1組	学活	項目   授業の参観と分析 児童に見通しを持たせることが大事だとわかった。
4	9				項目   職員会議への対応 事前に資料を見ておくことが必要だ。
4	9	2	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 国語では、かなりの時間を使って、教科書やノートの扱い方からていねいに指導していた。
4	13	2	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 国語では、音読の仕方にもいろいろあることを知った。
4	13				項目   学級の危機管理 児童個人の持ち物を大切にできるように強く指導することで、お互いの物をとったりという安易な行動を防ぐことができる。
4	14				項目   学級組織の作り方 ひとりひとりのやりたい気持ちを尊重しながら、決めていた。
4	14				項目   集団指導と個別指導 全体に対して言わなければならないこともあるが、個別のことについては場所や時間をかえて指導することが必要だった。
4	15	1	4年1組	算数	項目   授業の参観と分析 算数では、マス目を意識させて数字を書いたり、線を引くことが大事だった。それを利用すれば筆算式を書くのがていねいになる。
4	15				項目   児童理解の方法 児童から、教師にかかわりを持つとすることを待っていてもダメだと思った。自分からいろいろと積極的に児童に関わる必要がある。
4	16				項目   教材・教具の活用 理科では、たくさんの実験道具があり、それを教師がきちんと扱えるようにならないといけない。
4	16				項目   日常の安全管理 登下校の際は、どのような歩き方がいいのか、学校でも伝えることが必要である。
4	17				項目   児童理解の方法 字を書くのが遅い児童は、見ながら書くのが苦手な場合があることを知った。

## ジョブシャドーイング実施記録票

大樹町立大樹小学校 氏名 高平 昂太

月	日	校時	学級	教科	内容
4	17	3	4年1組	体育	項目   授業の参観と分析 体育では、まずは安全指導が重要であることがわかった。その上で、集団行動やさまざまな運動遊びをしたうがよい。
4	19				項目   教育機器の活用 書画カメラによる拡大投影はとても便利な教育機器である。
4	19				項目   学級懇談の進め方 保護者に、教師の考えを伝えることも大事だが、保護者の気持ちをまずは聞く姿勢が大事なことを知った。
4	21				項目   学級経営案の作成 1年間を見通した児童の成長を考えながら、学級経営案を作成しなければならない。
4	21				項目   児童理解の方法 児童は、担任に言えないことを、担任以外の教師に言うことがあるようだ。そこから児童の本音を聞き出し、担任に伝えることもひとつの
4	22				項目   家庭訪問の進め方 家庭訪問では、事前に話す内容を絞って、決めておくが良い。
4	22	4	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 国語では、発問の際に、言うタイミングを考えながらしていた。ただ、話していても児童は聞いているとは限らない。
4	23				項目   学校計画研修への対応 普段のジョブシャドーイングをどのようにすれば、効果的に進められるかを学ぶことができた。
4	23				項目   校内研修への対応 校内研修では、仮説というものがあった。仮説について検証するということがあったが、自分は少し難しいことだと思った。
4	24				項目   児童理解の方法 トラブルの多い児童にもかなり事情があり、決して、その子ばかりを悪く見ることはできない。
4	24				項目   児童会活動の指導 児童自身が活動を進めていくために、担当の教師と事前打ち合わせをする必要がある。
4	27		4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 机間巡視では、なかなかすべての児童の様子を見ることが難しかった。どうしても特定の児童にかかり切りになってしまう。
4	27				項目   いじめの問題の理解と対応 いじめをなくすためには教師の側にも毅然とした態度が常に必要である。いじめは絶対にいけないことだと伝え続けなければならない。
4	28	1	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 国語では、音読が飽きないように、いろいろな方法で行うのも手であるということだった。
4	28				項目   児童理解の方法 給食では、好き嫌いで食べない場合と、事情があつて食べられない場合がある。一人一人の食に関する実態を押しさえなければいけな
4	30				項目   教育機器の活用 テレビを視聴する授業の場合、児童は関心を持ってテレビに見入るが、何が大事かを見とれるようになるための事前指導が必要であ
4	30	2	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 国語では、漢字の練習にかなりの時間が使われることがある。

## ジョブシャドーイング実施記録票

大樹町立大樹小学校 氏名 高平 昴太

月	日	校時	学級	教科	内容
5	1	3	4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 机間巡視では、前からのぞくよりも、後ろから見ていく方が児童へのプレッシャーを減らすことができる。
5	7	3	4年1組	理科	項目   授業の参観と分析 課題に対して、予想を立てさせることで、その後の実験も興味を持って取り組める。結果と予想を比較させるのも良い。
5	8	2	4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 担任の先生の板書がとても見やすい。字が上手なものもあるが、行間の取り方や字の大きさへの配慮も見やすさの秘訣だと思った。
5	11	3	4年1組	社会	項目   授業の参観と分析 大樹町の様子を学ぶために、町に出たり、身近な事柄を話題にしながら、学習を進めることが理解を促すと思った。
5	11				項目   教育機器の活用 拡大投影機を利用して、視覚で児童に説明することができる。
5	13	2	4年1組	算数	項目   授業の参観と分析 まとめを書くとき、書くだけで精一杯で、書いたことを覚えることができない児童がいる。そのために、休み時間を利用して、一緒に覚えたことを確かめ
5	14				項目   児童理解の方法 忘れ物が多い児童は、家庭での過ごし方が不規則だったりとしたところがある。家庭との連携が大切だ。
5	14		4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 たくさんいろいろな意見が出てきたときにまとめるのが難しい。その時は、あえて児童にまとめになるようなことを言わせるのも方法であ
5	15				項目   児童理解の方法 1学期も一月が過ぎると児童もかなり様子が変わってくる。慣れもあるのだろうが、授業に身は入らないことも多いので、学習にもいろいろ工夫を取り入れる時期だと言うことだった。
5	15	6		クラブ	項目   クラブ活動の指導 クラブは、児童の自主性を養う面があるので、自分たちの活動を自分たちで決められるように教師も配慮しなければならない。
5	19	2	4年1組	算数	項目   授業の参観と分析 前時での学習を必ずふり振り返りながら、本時の学習に入ることが算数ではとても大事になってくる。他の教科も同じだと思うが、算数では学んだことを生かさないといけないことが多い。
5	19				項目   教材研究の進め方 算数では、その時の授業の前後や他の単元、または他の学年との学習内容も意識しなければならない。
5	26				項目   児童理解の方法 運動が苦手な児童もいる。そのような子は運動会が近づくと、元気がなくなったり、休むこともあるということだった。
5	26	3	4年1組	体育	項目   授業の参観と分析 リレーの練習では、バトンの受け取り方や渡し方が一番大切になってくる。
5	27	4	4年1組	算数	項目   授業の参観と分析 線を書くとき、定規を使わない児童がいる。しっかりと定規を使って正しい線を引くようにするためにも教師が看取る必要がある。
5	28	2	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 説明文を読むときは、順番を表す言葉や、まとめを示す言葉に注目させながら読むことが大事だった。
5	28		4年1組		項目   学級活動の指導 朝の会では、担任の先生が児童に一日の流れがつかめるように指導している。短い時間なので簡単に説明することが大事になる。

## ジョブシャドーイング実施記録票

大樹町立大樹小学校 氏名 高平 昴太

月	日	校時	学級	教科	内容
5	29				項目   児童理解の方法 なかなか話す機会がない児童がいる。自分から話しかけるが、こちらに関心がないようだ。これからどうすればいいか担任の先生と相談
6	1		4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 児童が、授業に気乗りしなかったり、疲れていたりするときほど、教師の配慮が必要。その時に、どんな話題を出せるか、自分の中に引き出しをたくさんもっていなければならない。
6	2	5	4年1組	道徳	項目   授業の参観と分析 感じたことを、自らふり返ったり、友達同士で交流させることで、テーマが深まることもある。
6	2				項目   教材研究の進め方 ひとつの授業でいろいろやろうとすると時間がいくらあっても足りなくなるので、どれを生かしてどれを削るか考えるのが難しい。
6	3				項目   児童理解の方法 毎日の健康チェックも一人一人の調子を知るうえで大切なことなので、教師もきちんと確かめておく必要がある。
6	4	6	4年1組	社会	項目   授業の参観と分析 社会見学では、事前に調べるポイントを確認してから行かないと、戻ってきて学習をまとめても十分なものにはならない。
6	4		4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 教師が話しすぎるのもよくないということだった。教師の話は無駄なくして、子どもたちからの話を授業で生かすべきとのこと。
6	5	5	4年1組	算数	項目   授業の参観と分析 割り算のひっ算は、小の位取りがとても間違いやすい。何度も練習して覚えられるようにするのもひとつの方法ということだ。
6	7				項目   学校行事の指導 運動会本番は、練習以上に子どもたちががんばっていた。そういう姿を見るととてもうれしく思う。
6	9	5	4年1組	理科	項目   授業の参観と分析 電気で動く教材を扱うとき、児童の興味はとても高まる。そこで、自分や他人の物の扱い方を事前に注意しておく必要がある。
6	10		4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 話し合い活動するときには、児童に役割部分担をしてから進めるとよい。話がずれたり、盛り上がらなかつたりするので、時々教師も話し合いに参加する。
6	12	2	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 箇条書きで調べたことを記録させていくようにすると、他の調べ学習にも生かすことができる。
6	15	5	4年1組		項目   学級活動の指導 グループ活動をするときは、リーダーに指示をして、そこから仲間をリーダー自身が動かすように組織立てるとよい。
6	16	3	4年1組	国語	項目   授業の参観と分析 漢字辞書を使うときは、いろいろ調べ方があるので、必要に応じて、一番ふさわしい調べ方ができるようにする。
6	16	3	4年1組	社会	項目   授業の参観と分析 ゴミの処分の流れを学ぶ。身近な話題から学習の導入するとよい。
6	17	2	4年1組		項目   授業実践に関する基礎技術 教師が話をするときには、児童の姿勢に気を付けてから話は始めるとよい。
6	18	5	4年1組	体育	項目   授業の参観と分析 ボール運動は、多くの児童が好きな活動だ。ついムキになって児童同士でもめることもしばしば多い。



# 平成 27 年 11 月 ジョブシャドーイング実施記録

伊達市立伊達小学校 佐藤健太  
(指導教諭：加藤 智恵美先生 永井 修先生)

日	曜日	校時	学級	教科	内容	反省等
2	月	1	1年2組	国語	・授業実習⑥	これまでのワークシートを用いて、学習を進めていくために、児童一人ひとりのワークシートの状況を的確に把握して、その上で、全体への指示や発問を考えていく必要がある。教師の実物例を用意することも重要であるが、それを明確に示すことができるような工夫について(実物投影機で、画面上に写しだして示す、拡大したワークシートを黒板に提示するなど)も場合によっては必要。
		2	1年1組 1年2組 1年3組	体育	・授業実習⑦	学年で指導するという意識を常に持ち、全員の様子を極力みるよう立ち位置や姿勢、目線を工夫する必要がある。また、指示については、学年全体に伝わるように、言葉を短くかつ伝わるようなものに検討する必要がある。
		5	1年2組	国語	・授業実習⑧	1校時とのつながりを考慮し、児童の活動が継続的なものになるよう、教師の指示は1校時と同じものにするよう努め、言い換えたり、違う指示をしたりすることのないよう留意する必要がある。
4	水	2	1年1組	国語	・プレ研	<p>プレ研ということで、授業者の構想している細案を流すよう努めることが大切であるとともに、実際に授業を流してみることで、研究授業に還元できるものを検討することが重要。</p> <p>DVD などの活用については、授業者が意図をもって、何のために児童に示すのかをはっきりとさせたうえで、授業に生かすことが重要。</p>

		5	1年2組	国語	・授業実習⑨	漢字の練習の時間や、プリントの配付と回収の時間なども含めて45分間の授業を構想していく必要がある。また、授業の開始にあたっては、授業者自身も準備万端の状態にしておくことが重要である。 推敲にあたっては、例文を用いて作業をさせることも指導の方法としてとれるが、その際は、どの場所にどのような誤答やポイントを配置するかなど、丁寧に児童の目線に立って作成していくことが必要となる。
5	木	2	2年1組	国語	・プレ研	板書の色については、白をベースとして、赤・黄を強調等に使うよう努める。また、学年に応じて、児童のノートと板書とのつながりを考えることが大切である(1年生であれば、ノートのマス目と黒板の板書を同じにするなど)。
		4	1年2組	国語	・授業実習⑩	授業のはじめに、これまでの学習の流れを想起させることで、単元を貫く言語活動を改めて認識させるような手立てを講じる必要がある。また、どのような授業であっても、めあて(学習課題)については確実に児童に板書等で示すよう努める。
		5	1年2組	国語	・授業実習⑪	児童自身が書いた文章を、児童自身で推敲する作業は負担が大きいため、ペアで行ったり、場合によってはグループで行ったりすることで、全体指導で学習した事項に沿って、推敲することが可能になる。学年の発達段階に応じて、学習を進める方法を工夫していく必要がある。
6	金	1	1年2組	国語	・授業実習⑫	テストについては、ヒントを与えないと決めた場合は、全員平等にヒントとなりそうな事を話さないと

						<p>いう姿勢で臨むとともに、机間指導を行い、児童一人ひとりの定着度等を確認するよう、工夫してテスト時間を過ごす必要がある。</p>
		2	1年1組 1年2組 1年3組	体育	・授業実習⑬	<p>100人の児童に活動をさせるにあたり、シンプルな隊形移動、分かりやすいルール・方法の説明を考慮しておく必要がある。また、私語が多い場合には、声量を上げるだけでなく、場合によっては児童が聞く姿勢をつくるよう、あえて声量を落としたり、指示を中断させたりすることも方法として取り入れる。どのような授業でも、一辺倒にしないよう、常に考えることが重要である。</p>
		3	1年2組	生活	・児童が発表する前に練習できる機会の確保について	<p>ワークシートの発表等をするにあたって、児童にいきなり発表させるのではなく、発表の練習時間を確保したり、教師の前で、1対1で実際に発表させたりすることで、発表することが苦手な児童に対しての手立てを丁寧にとることが大切である。</p>
9	月	2	1年1組 1年2組 1年3組	体育	・授業実習⑭	<p>活動の待ち時間の姿勢や、移動の素早さ、縦横をしっかりと揃えた整列、準備運動の声量など、きちんと取り組むことが出来ていることに対しては、見つけたその場で、全体に紹介・還元するよう、児童の動きを細かく把握するよう努める。</p> <p>また、担任の先生方のお力をお借りしながら、45分の授業時間を少しでも無駄のないものにするよう、打ち合わせ等でお願いや確認をしっかりとる。</p>
		5	1年2組	国語	・授業実習⑮	<p>家庭から頂いたコメントなどについては、必要に応じて紹介するとともに、ペアでの交流を取り入れ</p>

						<p>て、個々人の学習の成果を他人に話すことで考えるよう工夫することも必要。</p> <p>更に、一単元の学習の終末にあたっては、今後の学習につながるような声かけを行い、単元の学習が切れることのないよう留意する必要がある。</p>
10	火	2	1年2組	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な音読の指導について</li> </ul>	<p>家庭学習での音読をはじめ、音読によって児童の学力を上げるために、授業中に教師の追っかけ読み、教師と同時読み、個々人で一読、ペアで交代交代に読むなど、多様な方法をとって、音読させる。また、音読については、1時間で終始させることなく、何時間も繰り返し繰り返し音読させることが重要である。</p>
		5	市教研 (関内小)	道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の教材文の読み方と場面演示の活用について</li> </ul>	<p>道徳の教材文を読む際は、なるべく感情を込めず、教師の意図も含めずに、平坦に読むよう心がける。場面演示については、時間的制約も考えながら、心情の変化を汲み取らせたい場合は前半と後半に取り入れる、ペープサートを用いて、簡略化を図るなどの工夫をする必要がある。</p>
11	水	2	1年2組	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオを活用した定着を図る工夫について</li> </ul>	<p>児童の理解を深めるあるいは定着させるための手段としてビデオやDVDを用意し、活用することも方法として検討する必要がある。その際は、事前に授業者が視聴・利用することで、事前にどのような声かけをすることが重要なのか、補助のワークシートや掲示物を用意すべきかなどを考慮する必要がある。</p>
12	木	1・2	1年3組 2年3組	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開研究会</li> </ul>	<p>研究の内容・進め方について、紀要を読んだり、過去の研修資料を読み最低限の内容は把握したりした</p>



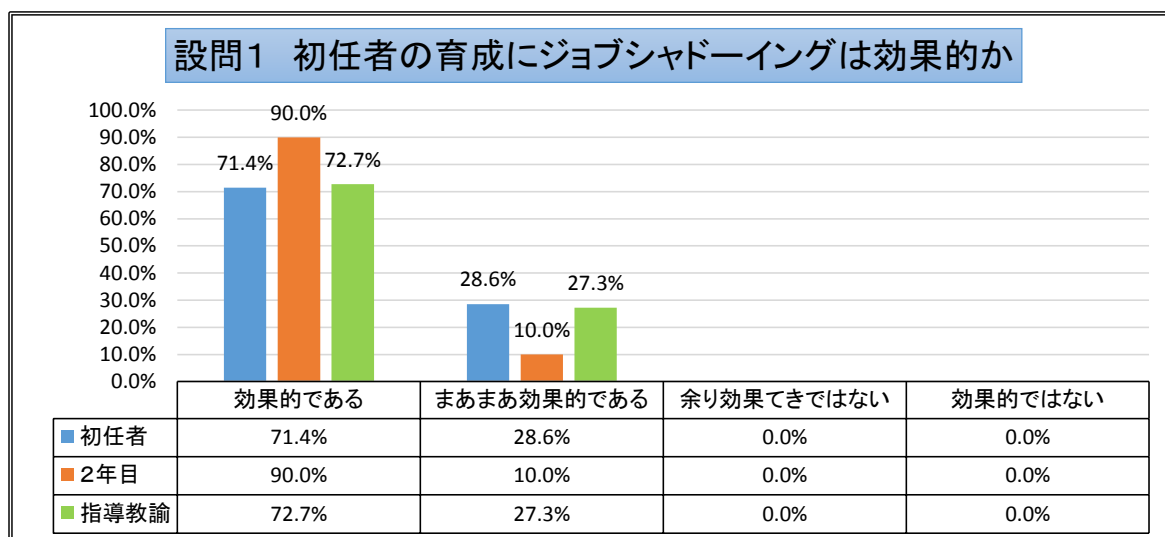


## 6 アンケート結果

初任者・2年目・初任者指導教諭に対し、ジョブシャドーイングの「効果」、「不安や悩み」、「来年度に学びをどう生かすか」等、選択式と記述式によりアンケートを実施し、その結果を掲載

# ジョブシャドーイングに係るアンケート 【 選 択 式 】

## 設問1 初任者の育成にジョブシャドーイングは効果的か



※アンケートでは初任者教諭は初任者 2年目教諭は2年目 初任者指導教諭は指導教諭と表記

※アンケート回答人数 初任者14名 2年目10名 指導教諭11名

### ★アンケート結果から

初任者と指導教諭は、「効果的である」としているものの、2年目への不安も感じている。しかし、2年目の教員は1年目のジョブシャドーイングでの実践が効果的であると実感。

## 【初任者・2年目】

### ■効果的である・まあまあ効果的であると回答した主な理由。

- 1年を通して同じ学級に入って観察することがジョブシャドーイングの最大の特徴であり、利点であると思っている。その意味で、担任の1年間の動きを（事務的なものも含めて）間近で観察できたからこそ、たくさん知ることができた。
- 今後の教員生活の基盤となる教師としての心構えや学級づくり・授業づくりなど仕事観を学ぶことができた。また、指導教諭の手厚い指導を受けることができるため、1回のリフレクションから得られる学びも大きい。
- 学校で起こる様々な、出来事に対し、ロールプレイングのように、もし自分が担任だった時にどうするかを事前に考える機会となった。
- 疑問点や深く知りたいことについて、すぐに質問・相談することができる。
- 指導教諭の実践・助言から、教師としての必要な力の基礎について学ぶことができた。指導教諭の意識や姿勢、学び方を深く学び、今後の教師人生に生かしていこうと考えることができた。
- 1年間の教師としての仕事を見通した上で、新年度を迎えることができることは非常に有意義な研修だと思う。
- 優れた教師がもつ児童観や授業観といった根本的な考え方を知ることができた。自分一人では何十年もかかる経験則を、1年の間に数多く教えてもらい実践の糧となった。

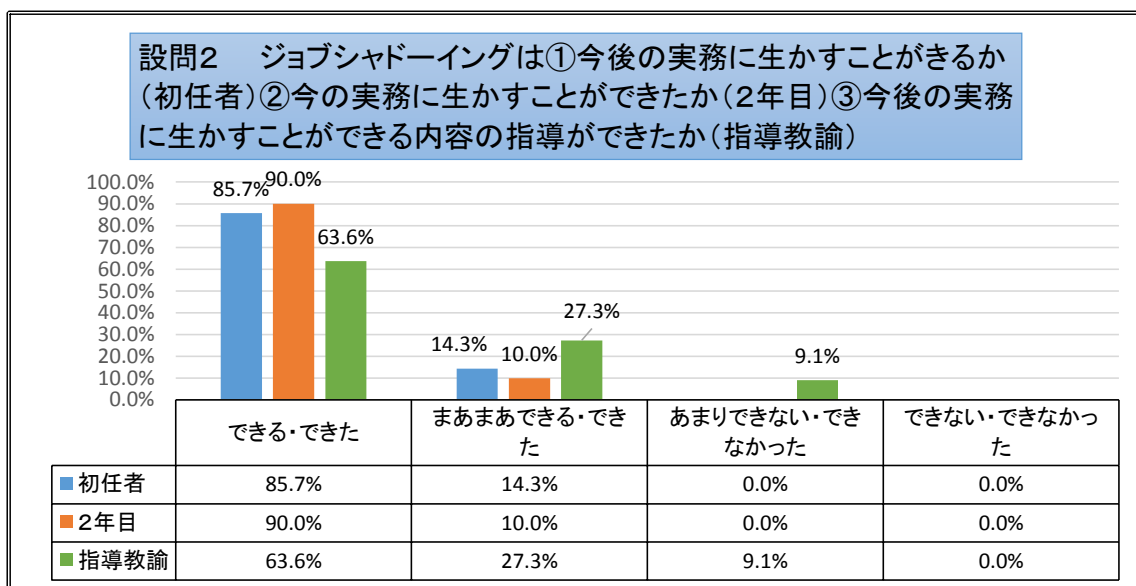


- ・ 授業に関すること、生徒指導に関すること、分掌のことなど、大学の講義で学びきれない点を、マンツーマンで学ぶことができる。また、勤務校の実態に即して指導していただけるので2年目からの指導方法や校内の動きに関して、見通しをもちやすい。
- ・ 自分が担任をもった時のことを具体的に想定しながら学べたが、一人の指導教諭だけから指導を受けることで、様々な教育観に触れることができなかった。
- ・ 1年間を通じて、1人について、じっくり学ぶことができる反面、T1として授業する機会が保障されないと、学んだことを使う場が少なくなると思う。

## 【指導教諭】

### ■効果的である・まあまあ効果的であると回答した主な理由。

- ・ ジョブシャドーイングは効果的である。ただし、校内体制によっては、指導教諭の選定（力量・負担）、日常業務との両立等配慮すべき点が多い。その点がうまく機能するかどうかで効果は変わると感じる。
- ・ 効果的な取組だと感じる。市内でこの取組を紹介した際も、「有効だ」「羨ましい」など取組を希望する声が多かった。もうすぐ1年目を終える段階では、効果はかなり大きいと感じているが、効果があったかどうかは、次年度担任となって学級経営をした時に検証できるのではないかと思う。



○アンケート回答人数 初任者14名 2年目10名 初任者指導教諭11名

### ★アンケート結果から

初任者・指導教諭がお互い学び合い、尊重しながら良好な関係が構築されジョブシャドーイングが実践されていることの裏付けとなっている。

## 【初任者】

### ■「できる」・「まあまあできる」と回答した主な理由

- ・ 次年度から担任をもつ際も、今年度の動きを思い出しながらか見通しをもって行動できることは自分にとって大きなメリットだと感じる。



- 学級経営を行う上での柱とそれに通じた生徒指導の在り方は、今後の実務に大いに活用することができる。
- 教科や子どもたちの実態はもちろんのこと、同じ教科でも単元によって指導の方法や授業の組み方に違いがあり、様々な指導方法を学ぶことができた。
- 学級指導や生徒指導など自分が担任をもった時に実践をしてみたいと思うことを多く知ることができた。
- 授業で単元を任された際には、1時間毎に授業反省を初任者指導教諭と行い、反省点や改善点を記録しながら授業を行うことができたので、今後の授業に生かしていけると感じている。

## 【2年目】

### ■「できた」・「まあまあできた」と回答した主な理由

- トラブルがあったときの対応や、日常生活指導、行事のたびに、1年目の学びを思い出し、自分なりに整理し指導している。
- 昨年指導していただいたことが様々な場面で、現在の私の考えの土台となっており、それを参考により良い指導法を考えることができています。また、授業や生徒指導に関して、多くの指導方法を学ぶことができ、今年度の自分の学級経営の参考になっている。
- 今年は特別支援学級担任のため、授業においては学びを生かし切れていない部分もある。子どもの実態を見極めることが難しく、昨年までの進め方ではうまくいかないことが多く、試行錯誤しながら進めた。
- 1単位時間の時間の使い方や子どもたちへの声かけの方法・タイミングなど生かされている。また、子どもたちに対する一貫した指導を心がけている。
- ジョブシャドーイングで観察した実践を、そのまま自分の実践力として発揮することは難しいが、1年間の授業観察を通して得た観察の視点は、自分の実践を振り返る上で役立った。また、目標とする指導教諭の指導方法を知っていることで、目指すべき子どもの姿や自分との差異を具体的に考えることができた。

## 【指導教諭】

### ■「できた」・「まあまあできた」と回答した主な理由

- 「見ること」、「知って理解すること」、「実践すること」、「振り返ること」で効率的な指導ができた。
- 指導教諭の学級経営、授業を身近で観察し、話し合い、振り返る時間は学級担任をもっているとなかなか取れない。その意味で、今後、学級担任をもった際に生かすことができる内容になったと感じる。
- 指導教諭以外の複数の教諭に指導してもらう機会を多く設定することができたため、子どもの発達段階や実態に応じた様々な指導方法を学ばせることができた。
- 学年打ち合わせから、実際の授業参観、T2としての参加、その後のリフレクションの一連の流れを通して、子どもの実態に応じた学級経営、教科指導について指導することができた。
- 初任者自身の性格や感性、特性などにかなり左右されることが分かった。ジョブシャドーイングを粹に感じ、細かい部分にまで学ぼうと意識がある場合と、スタートからジョブの意義を感じていない場合では、その吸収具合に差が出ると考える。（あまりできなかったと回答）